

# 歴史探訪

## クラブ!

其の 133

History Inquiry Club



文化財課 ☎23局 3635  
FAX 22局 3811

### 貝づくし渥美1

渥美商工会が進めている「貝づくし渥美」のパンフレットやホームページをご覧になったことがありませんか。貝料理の美味しいお店の紹介や貝にまつわる情報が満載です。貝の旬の時期、おすすめの料理方法まで載っていて、とても親切なものです。また、きれいな写真でレイアウトされ、見るだけでも楽しいパンフレットです。

私は、その中で「日本一の貝の半

島」というコピーがとても気に入りました。「ちよつと大げさじゃない?」と思う方がいるかもしれませんが、私も大賛成。よくぞ言ってくれましたと思わず拍手をしてみました。それでは、なぜそんなことを言えるのか、渥美半島の人たちと貝とのつながりを探ってみましょう。

渥美半島は貝塚の宝庫と呼ばれるほど、縄文時代の貝塚が多い地域です。2mあまりにも積み重なった貝殻の地層を見ると、縄文人は貝が大好きで、さまざまな貝を食べていたことがわかります。今でも店先や料理店で並ぶアサリ・ミルクイ・ウチムラサキ(大あさり)・ダンベイキ



▲貝で作られた玩具

サゴ(ながらみ)・アカニシをはじめ、あまり食べないオニアサリ・イボニシ・スガイ・ツメタガイ・サルボウまで食べています。しかし、縄文時代に多く食べられていた貝のハマグリ・ハイガイ・イタボガキは、今では渥美半島には、いなくなっています。渥美半島の人たちは、昔からさまざまな海に生息する貝を食べていたことが特徴としてあげられます。

また、縄文人は食べるだけでなく、腕輪を作るためにも貝を利用していました。この貝の腕輪は、渥美半島のブランドとして当時の重要な産業でした。

平成17年に吉胡貝塚の発掘で見つかった「葬られた女性」は、貝の腕輪、貝の頭飾り、貝の鏃(やじり)といった貝にこだわったアクセサリを身に付けていました。また、埋葬された子どもには、合わせた貝殻の中に貝を



▲縄文女性に付けられた貝のアクセサリ

入れ、音を出す「ガラガラ」のような玩具が添えられていました。まるで、貝に囲まれた渥美半島の人たちを象徴するようです。

・・・つづく

(増山)

### 今月の「表紙」

▼出勤途中で見かける福江町のカワツザクラ。苗木のころから成長を見てきたので、毎年、開花を楽しみにしていました。冬の寒さが長引き、平年よりも開花が遅れていましたが、心待ちにしていたぶん、満開になったときの感激もひとしお。今では、立派なツザクラの名所になりました(〇)

【表紙の写真】免々田川のカワツザクラ(福江町)